

令和4年は「越」の年に

新年あけましておめでとうございませす。市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、旧年中は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、不要不急の外出自粛や休業要請にご協力をいただき、心より感謝いたします。

昨年より、新型コロナウイルスワクチンの3回目の追加接種が始まりました。市民の皆様にも少しでも早く3回目の新型コロナウイルスワクチンを接種していただけるよう、全力で取り組んでおります。

また、感染拡大防止についても引き続き取り組んでまいりますので、ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

壁や困難を乗り越える年

今年の干支は「寅」です。虎と聞いて、勇猛果敢で力強く、困難に立ち向かうイメージを持つ方も多いと思います。私も、様々な壁や困難を乗り越えたいと、決意を新たにしたいところです。

新年を迎え、私は今年の抱負を「越」の一文字で表現しました。

新型コロナウイルス感染症により私たちの生活が一変してから、2年が経

過するところです。この2年間で、マスクの着用やテレワークの推奨など、新しい生活様式となりました。その効果もあり、新規感染者数が抑制され、人の動きが徐々に活発化し、社会経済活動が動き始めてきました。そのような状況の中、新たな変異株が国内でも検出されるなど、未だ予断を許さぬ状況には変わりありません。

新型コロナウイルス感染症の影響のみならず、つくばみらい市を取り巻く環境は刻一刻と変化しています。それに伴って変化する問題にも、力強く対応していく必要があります。

そのためには、前例踏襲の意識や既成概念を乗り越え、次のステップに向かわなければならず、私は考えています。そうした思いを「越」という一文字に込めました。

つくばみらい市を次のステップへ

昨年8月に、みらい平市民センターオープンと同時に、2階には「おやこまるまる・サポートセンター」を開設しました。当施設は、妊娠・出産期から子育て期までの切れ目のない様々な支援を実施しています。

子育てに対するきめ細かな支援により、つくばみらい市は、年少人口割合が3年連続県内1位となっております。しかし、市をより良く発展させるためには、現状に満足せず、子育てに対する支援を更に進めていく必要があります。

これからも、「おやこ」を支える様々な事業を展開し、今まで以上に子育てに対する支援体制を強化していきます。

また、昨年11月には、第1回つくばみらい市米コンテストを開催しました。つくばみらい市は、古くから「谷原三万石」と呼ばれる米どころですが、その品質の良さにもかかわらず、認知度が低い状況にありました。

この米コンテストを通じて、市内産米の美味しさを、市民の皆様知っていただくきっかけを創出しました。これを契機に、生産者の方々の栽培意欲と、市内産米の品質の更なる向上に繋がっていきたく考えています。

そして今年、DX（デジタルトランスフォーメーション）による日本一住みやすいまちの実現を目指し、DXに向けた包括連携協定を締結し



たHENNGE(株)との連携をさらに進めていきます。スマートフォンアプリ「Sumamachi」により、市民の皆様をつなぐ双方方向のコミュニケーションを強化することで、官民の垣根を越え、住みやすいまちづくりを目指します。

これからも、市民の皆様へ寄り添いながら、まちづくりに取り組んでまいりますので、本年も変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が皆さんにとりまして、幸多き年となりますようお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

つくばみらい市長

小田浩